



## 新型コロナの市中感染広がる！

9月に入り、秋の虫の音色に朝夕は秋の気配を感じるようになりました。7月から流行していたRSV感染症も8月中旬から一段落。今では小児科外来の主役は新型コロナ感染症になっています。発熱のお子さんに抗原検査をすると高い確率で陽性反応がでます。コロナが普段の日常に深く浸透していると実感します。小児科外来診療で感じた小児のコロナについて述べてみます。

★**感染場所で最も多いのはやはり家庭内感染。**部活動、対外試合、学童保育などの感染もありますが、普段会わない人との接触が感染リスクになっているようです。感染経路が全くわからないお子さんも少なくなく、コロナと診断をされて驚かれる親御さんもいます。

★**子どものコロナの症状は軽症で、発熱はほとんどが2日以内に下がります。**病初期に腹痛、嘔吐など消化器症状を訴えるお子さんが多い印象です。

★**抗原検査には注意が必要です。**発病初日は陰性で、翌日に陽性となるケースが結構あります。**発病から12～24時間後に検査をすることをお勧めします。**

インフルエンザに対するタミフルのような外来治療薬が新型コロナで出現するまでは、これまでの感染対策と変異株に効果のあるワクチンを接種していくしかないのかもしれないかもしれません。

## 小児のコロナワクチン3回目始まる！

夏休みが終わり2学期が始まりました。小児のコロナワクチンの3回目の接種が近日始まる予定です。

**5～11歳のコロナワクチンの接種(8月末時点で1回目19.8%、2回目17.8%)は進んでおらず**、学校でのクラスターの発生から家庭内感染につながる事が懸念されています。ワクチン接種を推進するため政府も**9月から努力義務を課す**予定です。また、**日本小児科学会も8月10日に小児のコロナワクチンを意義があるから推奨するに変更**しました。お子さんのワクチン接種を悩んでいる保護者の方は、日本小児科学会のホームページをご覧ください。



## 8月の感染症情報

先月から流行していたRSV感染症は、8月中旬から下火になってきました。小児の新型コロナ感染症は先月に引き続き高いレベルで流行しています。8月中旬から手足口病が出始めました。今後の流行に注意してください。



## 8月の利用状況

8月の利用延べ人数は71人で、1日の平均利用人数は、3.2人でした。年齢別では1歳児が36人で最も多く、次いで2歳児と3歳児の13人でした。疾患別ではRSV感染症が47人で最も多く、次いで急性上気道炎17人の順でした。昨年の夏にもRSV感染症が流行しましたが、それまでの流行パターンと異なりRSV感染症は夏場の感染症になったようです。新型コロナの流行により、行動制限を強いられる日常が長く続いています。これから朝夕が涼しい季節になります。朝少し早く起きて親子で散歩をするなど涼しい時間帯を有効に活用するようしてみてもいいかもしれません。